

株主メモ

- 決算期** 3月31日
定時株主総会 6月
基準日 3月31日(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
利益配当金支払株主確定日 3月31日
中間配当金支払株主確定日 9月30日
上場証券取引所 東京・大阪・名古屋・福岡・札幌
公告掲載新聞 日本経済新聞
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
みずほ信託銀行株式会社
同 事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
〔郵便物送付先〕 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
〔電話お問合せ先〕 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0570 - 000324 (専用ダイヤル)
☎ (03) 3642 - 4004 (代表)
同 取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほアセット信託銀行株式会社 本店および全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

「安田信託銀行株式会社」は、平成14年4月1日から社名を「みずほアセット信託銀行株式会社」に変更しました。



Vol.8

第84期 事業報告書
平成13年4月1日～平成14年3月31日



©Painting by Bob Pettes/
NOSTALGIC IMPRESSIONS / Orion Press

くらしへ笑顔と安心をお届けします。



Contents

株主の皆さまへ	2
トップインタビュー	3
連結決算ハイライト	7
連結決算概要	8
単独決算ハイライト	14
単独決算概要	15
KEY WORD	17
INTRODUCTION	19
おいしさひと工夫	20
株式の状況	21
会社概要	22

表紙絵の画家プロフィール

表紙絵は、民話に心惹かれた米国人画家 Bob Pettes (ボブ・ペテス) 氏の作品です。ミネアポリス美術学校に学んだのち、民話にふさわしいタッチで描いた「アメリカーナ」シリーズが評判となり、人気を集めています。



代表取締役社長

浦野光人

代表取締役会長

大戸武元

グループミッション・ビジョン

○ **ミッション** ——【使命・存在意義】
くらしを見つめ、
人々に心の満足を提供する。

○ **ビジョン** ——【めざす姿】
ニチレイ・グループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客さまにご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

グループ中期経営計画

スリムで強靱な企業体質を活かしながら、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」としてコーポレートブランドを高め、リーダーシップを発揮する食品上位企業としてのステータスを確立させる取組みを計画の基本としています。

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。ここに第84期事業報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当社グループは、中期経営計画の初年度として、成長分野への設備投資の集中や、大型の資本投下を必要としないノンアセット型事業を積極的に推し進める一方、使用資本の抑制により資本効率の改善を果たしながら収益の拡大に取り組むなど、重点経営施策を着実に遂行してまいりました。

当期の連結業績につきましては、厳しい事業環境のなかで売上高はほぼ前期並みとなりましたが、営業利益および経常利益は前期に比べ減益となり、グループ中期経営計画における初年度目標をクリアすることはできませんでした。なお、当期純利益は、生産工場の移転や事業所の閉鎖に係る損失、投資有価証券の売却損・評価損などの特別損失を計上しましたが、前期に比べ増益となりました。

今後につきましては、グループ中期経営計画の見直しを図り、当初の軌道に戻すため重点経営施策をさらに強化してまいります。

コア事業の一つである低温物流事業では、全国の保管型物流機能と輸配送機能との連携によるシナジー効果を発揮した物流サービスの提供を一層強化し、お客さまのニーズにお応えするとともに、ローコスト化に向けた施策を徹底するなど、収益の確保に努めてまいります。

食品事業は、品質保証力をさらに強化することにより、お客さまと社会から期待される商品・サービス品質を実現し、生活者の皆さまの「安全・安心」に対するご要望にお応えしてまいります。また、付加価値の高い商品の開発に取り組む一方、原材料調達コストの削減、不採算商品のアイテムカットを積極的に推し進めるなど、資本の効率的な運用を実行してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年6月

「安全・安心」という 食品企業の原則に立ち返り、 新カテゴリ戦略に取り組みます。

食品関連業界は、円安などにより原材料価格が上昇し、食の「安全・安心」を問われる問題が相次ぐなど、厳しい経営環境のなかで推移しました。

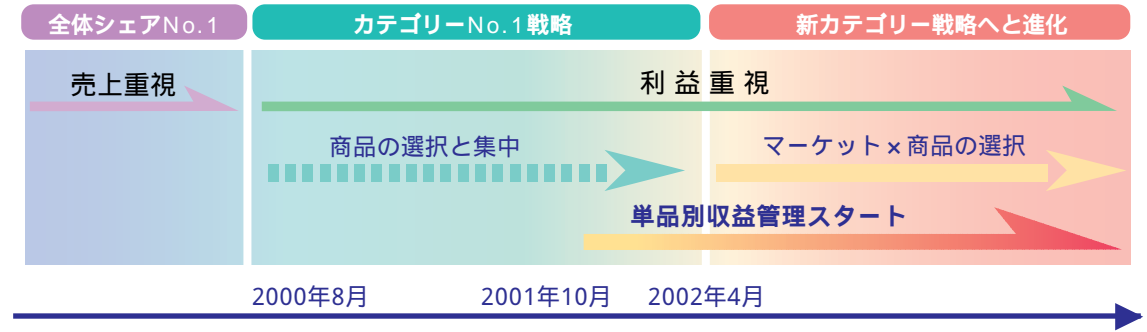
当社グループは、「安全・安心」という食品メーカーの原則に立ち返るとともに、さらなる成長をめざして、「カテゴリNo.1戦略」の発展形といえる「新カテゴリ戦略」に取り組み始めました。



代表取締役社長 浦野 光人

Q 新たな成長戦略「新カテゴリ戦略」は、従来の「カテゴリNo.1戦略」と、どのように異なるのでしょうか。

A 2001年度を初年度とした当社グループ中期経営計画において、私どもは低温物流事業と食品事業をコア事業と認識し、売上高、営業利益がともに最大規模となっている食品事業のうち、加工食品を成長戦略の原動力と位置付け、「カテゴリNo.1戦略」を展開してまいりました。その結果を検証し、2002年度ではさらに精度の高い「新カテゴリ戦略」へとシフトいたしました。従来の3大カテゴリ「チキン加工品」「米飯類」「中華総菜類」のなかでも、売れているのに利益率が低いものがあったり、逆に3大カテゴリに入らないものでも、利益率が高いものや拡販余地のあるものがあったりと、ERPの導入によって単品別の収益管理が可能になったことにより、様々な問題点が浮き彫りになってきました。ひとくちに業務用マーケットといっても学校給食用もあれば、外食産業用もあります。さらに外食産業でもホテル、ファミリーレストラン、居酒屋などいろいろな業態があります。そして、利益重視で考えると、3大カテゴリでは戦略カテゴリとしてのサイズが大きすぎるという反省に基づき、「マーケット」と「メニュー」の組み合わせによって細分化した30の重点カテゴリを新たに設定いたしました。そうしますと、カテゴリによってとるべき戦略がかなり違ってきます。売上高の増加によって利益成長を



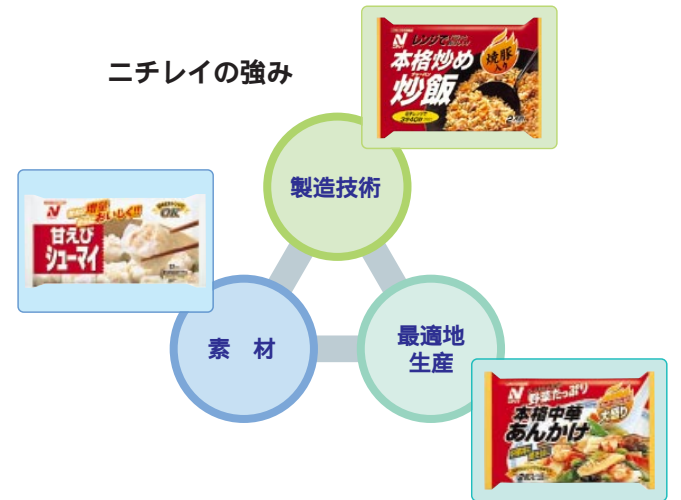
狙うもの（7カテゴリ）コストダウンによって利益改善を行うもの（14カテゴリ）将来的に利益を生み出すものとして育てるもの（9カテゴリ）というように戦略が明確に整理できることになります。

ERP（Enterprise Resource Planning：統合基幹業務システム）：資材調達から生産、在庫、物流、販売といった企業活動の一連の流れとともに、それを支援する会計や人事などの管理業務まで、あらゆる経営情報を統合して管理するシステム

当社だからこそ実現できたものです。第二は素材の優位性です。例えば、「甘えびシューマイ」は、ニチレイの品質管理スタッフが漁船に常時乗船し、生産指導や品質検査を行ったうえで収穫したグリーンランドの新鮮な甘えびを使用しています。第三に挙げられるのが、海外有力メーカーとアライアンスで実現した「世界規模での

Q 新カテゴリ戦略を実現させるためのニチレイの強みは、どのような点にあるとお考えですか。

A 何らかの優位性がなければ、新カテゴリ戦略は実現しません。当社の強みの第一に挙げられるのが製造技術です。例えば、電子レンジ対応商品では、衣はサクッ、中身はホクホクの「衣がサクサク肉じゃがコロッケ」の食感や「本格炒め炒飯」のプロの手作り感、優れた調理加工技術を持っている

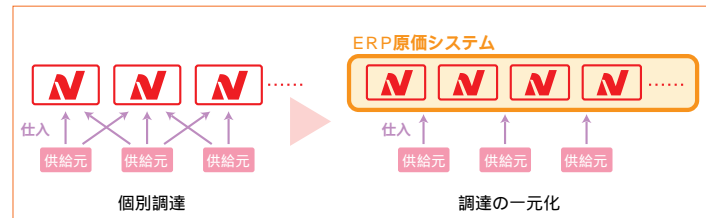




学校給食用
デザートゼリー

最適地生産」によって技術に裏打ちされた、特長のある商品の海外生産が可能になったことです。この春から生産を開始した中国の「本格中華あんかけ」やタイの「若鶏の唐揚南蛮」などが、その良い例です。農薬の安全管理を厳しく行っている野菜や無投薬の鶏を使用した商品で、どちらも「安全・安心」、「ローコスト」という2つの優位性を兼ね備えています。

やはり特長のある新商品の開発がメーカーの命であり、今後は30の新カテゴリーに焦点を当てながら開発を推し進め、売上高の15%程度を新商品で確保したいと考えています。おかげさまで、ここ4、5年、新商品は必ずヒットしており、この春も学校給食用のデザートや有名洋店の味を再現した「上等洋食」シリーズなど、期待の新商品が誕生しています。



の7工場は、現在ERP原価システムで1つに集約されたので、そのなかでコストの見直しを厳密に行っております。原料の購買につきましては、今まで各工場個別調達してきましたが、現在は7工場の使用量をまとめて調達の交渉ができる形をとっており、これが大きな成果となって近々現われてくるでしょう。

さらに海外生産との役割分担にも力を注いでおります。現在、日本における調理冷凍食品輸入量の9割近くが中国とタイからで、当社も中国に2カ所、タイに1カ所、合併による生産会社を有しています。今後も海外生産比率を増やしてまいります。このように国内7工場だけではなく、世界各国の提携先企業も含めてローコスト化を図っています。

Q コストダウンの追求も重要なテーマと聞きますが、生産体制の再構築はどこまで進んでいますか。

A 複数の工場に分散していたアイテムの生産を集約することで生産効率を高める計画ですが、2001年度に「春巻」など一部のアイテムで実施しており、重複して製品を作っていたラインの調整はすでに終わりました。また株式会社ニチレイフーズ

Q 「安全・安心」に対する不安が高まっていますが、どのように対処されていますか？

A すべての食品企業にとりまして、「安全・安心」は基本原則です。したがって昨年は、企業としての原則に立ち返る非常に良い機会をいただいたと考えております。私どもは2年程前から品質管理部門と工場などの監査部門を一元化した品質保証部を設

置し、生産拠点の品質管理レベルや原料の安全性の向上に努めてきました。海外の生産委託企業も対象で、品質管理上、ニチレイ基準に満たなくて不許可となったケースもあります。原料の安全性に関しましては、中国産冷凍野菜において残留農薬のトレースバックシステムを導入いたしました。これは、農家を特定し、その畑で使われる農薬をニチレイの目で見て厳しく管理し、バーコードを利用して畑ごとにロット管理をきちんと行うシステムです。半製品の状態でサンプリング検査を行い、そこで残留農薬などの問題が発見されれば、日本への出荷をストップします。万一日本に輸入されてから問題が発見されたとしてもロットを限定的に捉えることが可能ですし、この部分だけ廃棄すれば済み、リスクも最小限に抑えられます。

このように主体的に関わる部分は徹底的に関わってまいりますが、これは正直に申しあげて当社単独で完結することは不可能です。食品企業すべてが一丸となって信頼の輪を広げることが大事で、当社はその輪の中心になっていきたいと考えております。

パッケージ裏面にコードをつけ、野菜が採れた畑までを固定



畑ごとの区別(コード)が製品の区別(コード)に

Q 企業価値を一層高めていくための方策など、株主の皆さまに向けて、メッセージをお願いいたします。

A 自然派の食品会社として安全や安心をベースに置きながら、食生活の楽しさを提供し、生活者の皆さまの健康に貢献できる企業でありたいと思っております。そして、継続的に成長する姿を皆さまに思い描いていただける企業でありたい。その意味では、未来を見つめ、創造する企業価値を重視する経営を行ってまいります。

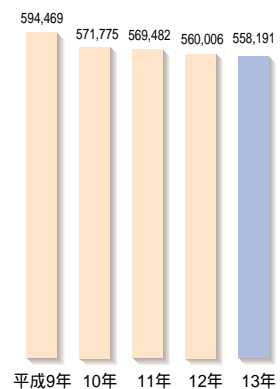
こうした経営方針や事業活動をご理解いただけるよう、私どもは、ディスクロージャーおよびIR活動を積極的に行ってまいりました。その成果が認められ、今年1月東京証券取引所から「第7回東証ディスクロージャー表彰」をいただきました。決算発表の早期化が図られているとともに、経営目標が具体的であり、中期経営計画の内容についても詳細に解説しているなどの点を高く評価されたものです。

株主や投資家の皆さまに安心して投資していただける企業であり続けたいと考えておりますので、一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

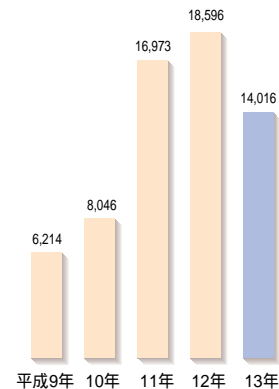


連結決算ハイライト

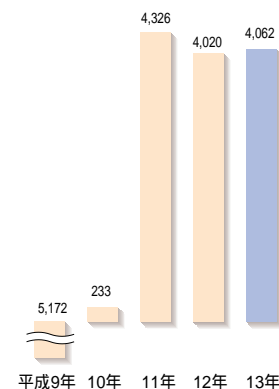
売上高 (年度/単位: 百万円)



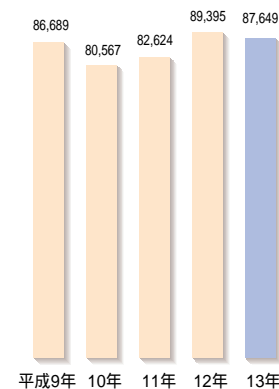
営業利益 (年度/単位: 百万円)



当期純利益 (年度/単位: 百万円)



純資産 (年度/単位: 百万円)



区分	単位	第80期 (平成9年度)	第81期 (平成10年度)	第82期 (平成11年度)	第83期 (平成12年度)	第84期 (平成13年度)
売上高	百万円	594,469	571,775	569,482	560,006	558,191
営業利益	百万円	6,214	8,046	16,973	18,596	14,016
経常利益	百万円	2,326	3,383	11,711	15,483	11,684
当期純利益	百万円	5,172	233	4,326	4,020	4,062
総資産	百万円	393,032	365,838	370,623	367,770	353,385
純資産	百万円	86,689	80,567	82,624	89,395	87,649
1株当たり当期純利益	円	16.63	0.74	13.91	12.93	13.06
1株当たり純資産	円	278.88	259.18	265.80	287.58	282.00
設備投資額	百万円	12,145	11,103	31,273	9,703	9,020
減価償却費	百万円	15,357	15,572	16,547	14,003	13,570
有利子負債	百万円	217,322	195,994	194,840	172,704	167,439
従業員数	名	6,502	6,147	5,951	6,907	6,761

(注) 1. 第82期から税効果会計を適用しています。
 2. 第83期から金融商品および退職給付に係る会計基準を適用しています。
 3. 印は損失を示しています。
 4. 1株当たりに関する指標は、自己株式数を控除して算出しています。

連結決算概要

当期の連結売上高は5,581億91百万円で、食品事業や不動産事業の売上高が減少したことから、前期に比べ0.3%の減収となりました。販売用不動産の売却益の減少、鳥インフルエンザの発生や円安などの影響による原材料買付価格の上昇および流通型物流サービスセンターの新規稼働に伴う初期費用の負担などから、営業利益は前期に比べ24.6%減益の140億16百万円となりました。

営業外収益は、前期に比べ7億89百万円減少し21億23百万円でしたが、営業外費用が15億71百万円減少し44億54百万円となったことから、営業外収支は23億31百万円のマイナスとなり、前期に比べ7億82百万円改善しました。これは、資金調達コストの低減により支払利息が減少し、金融収支が13億10百万円改善したことによるものであります。この結果、経常利益は116億84百万円となりました。

特別利益の総額は6億60百万円で、その内訳は神奈川県小田原市所在の土地売却などによる固定資産の売却益5億52百万円などであり、一方、特別損失は71億10百万円で、生産体制の最適化に伴う連結子会社の生産工場移転の損失14億59百万円や、当社物流サービスセンターの閉鎖を含む事業所閉鎖損失12億58百万円、投資有価証券売却損10億26百万円、保有株式の時価等の下落による投資有価証券の評価損8億3百万円などでありあります。

特別損益および少数株主損益を加減算した当期純利益は40億62百万円で、前期に比べ1.0%の増益となりました。

事業別の売上高・営業費用・営業利益 (単位: 百万円)

当期 (平成13年4月1日から平成14年3月31日まで)

	売上高	営業費用	営業利益
低温物流事業	110,937	102,941	7,996
食品事業	349,802	341,269	8,532
食品卸売事業	139,485	139,049	435
不動産事業	8,185	3,314	4,871
その他の事業	7,994	7,673	321
計	616,405	594,248	22,156
消去または全社	(58,214)	(50,073)	(8,140)
連 結	558,191	544,174	14,016

前期 (平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)

	売上高	営業費用	営業利益
低温物流事業	107,780	99,646	8,134
食品事業	354,248	343,693	10,555
食品卸売事業	136,466	136,137	328
不動産事業	9,717	2,826	6,891
その他の事業	7,515	7,164	350
計	615,729	589,468	26,260
消去または全社	(55,722)	(48,058)	(7,663)
連 結	560,006	541,409	18,596

注: 事業区分の変更
 当期から、グループ各社の役割と事業責任を明確に規定した「事業ユニット(グループ内カンパニー)制」を導入したことに伴い、各事業の業績をより明瞭に表示するため、従来まで「食品」事業に含めておりました株式会社ユキワおよび同社の子会社の事業を「食品卸売」事業として独立することに変更しました。
 なお、前期のセグメント情報は当期において用いた事業区分の方法により区分しています。

低温物流事業

保管型物流事業

お客さまの物流ソリューションを進めるため、当社グループの物流サービスセンターを配送拠点として位置付け、当社、株式会社ロジスティクス・プランナーならびに株式会社日本低温流通との連携により、保管機能と輸配送機能を組み合わせたトータル物流の提案・構築に取り組むなど、収益構造の転換に努めるとともに、お客さまに密着した営業活動を展開しました。

また、経営品質の向上をめざして、品質管理体制や環境マネジメントシステムの構築に取り組み、ISO9002（品質保証）の取得や廃棄物の削減、環境負荷の低減などを実施しました。資本効率の観点からは、沼津物流サービスセンター、仙台物流サービスセンターなど12事業所を閉鎖し、その一部を売却する一方、新たに仙台南物流サービスセンターを稼働させました。

しかしながら、BSE（牛海綿状脳症）や鳥インフルエンザなどの影響により稼働率が低下し、売上高および営業利益は前期を下回りました。

流通型物流事業

量販店・食品卸を中心に物流業務の外注化の動きが旺盛となるなか、お客さまの物流ニーズにお応えするため、流通型物流サービスセンターを埼玉県川越市に新設・稼働させました。また、事業の拡大に伴い、拡張余地のない船橋日の出物流サービスセンターを閉鎖し、新たに習志野物流サービスセンターを稼働させました。イオングループから受託した物流・生鮮加工業務を効

率的に運営するため設立した株式会社ロジスティクス・オペレーションは、その最初の取組みとして、トランスファー（配送）機能とプロセス（加工）機能を併設した仙台センターを稼働させました。

以上により、売上高は前期に比べ増収となりましたが、新規稼働に伴う初期費用の負担などから、営業利益は前期を下回りました。

3PL（サードパーティロジスティクス）事業

設立2年目を迎えた株式会社ロジスティクス・プランナーは、i-modeを利用した配送管理システムの開発・導入など事業基盤の確立に取り組むとともに、加工食品メーカーや外食産業・小売チェーンなどの物流業務の新規受託に努めました。

この結果、売上高は設立初年度であった前期を大幅に上回りましたが、固定費をカバーするには至りませんでした。

欧州（オランダ・ドイツ）事業

欧州グループは、水産物や果汁・果実の輸入量の増加から、在庫量・在庫量がともに前年を上回り、輸送・通関事業も好調に推移しました。また、Eurofrigo B.V.は、再建計画のもと業績を大幅に改善し、営業利益を黒字に転換することができました。

以上により、売上高および営業利益は前期を上回りました。



食品事業

加工食品事業

当期の調理冷凍食品市場は、量販店などの活発な販売促進活動により、家庭用は大きく伸張しましたが、ファストフード業界を中心とした低価格化戦略の影響により、業務用はコスト競争にさらされる厳しい事業環境となりました。

当社グループは、チキン加工品、米飯類、中華総菜類を冷凍食品の戦略カテゴリーとして位置付け、カテゴリー別シェアNo.1の獲得・確立と収益の向上をめざし、マーケティング機能の強化や新商品の開発に努めるとともに、生産体制の最適化による生産効率の向上と生産原価の低減に取り組まれました。家庭用では、昨春発売の「本格炒め炊飯」が電子レンジでも香ばしくパラッと仕上がる炒め技術により生活者の高い支持を受け、

ピラフ市場を拡大する原動力となり、売上げに大きく寄与しました。また、昨秋発売の逸品和菜シリーズは、和を極める総菜という新しいジャンルの提案が市場に受け入れられました。しかしながら、BSEの影響を受けて「ミニハンバーグ」、「衣がサクサク牛肉コロッケ」の売上高は低迷しました。業務用は、総菜ルート向けに発売した素材にこだわりを持った「特撰Deikクリームコロッケ（甘えび）」や、外食向けに発売した「特撰中華 直火炒めチャーハン」、「レストランユースピラフ類」などが全体の売上高に貢献しました。

一方、損益面では、生産体制の最適化による生産効率の向上



などにより、株式会社ニチレイフーズ船橋工場の生産数量は飛躍的に伸びました。また、単品別収益管理の徹底や原材料購買力の向上に努めましたが、円安や国際的な疫病の影響による原材料買付価格の高騰などから、営業利益は前期を下回りました。

レトルト食品・缶詰につきましては、レトルト食品の家庭用カレー類などがBSEの影響を避けられず、売上げ・収益はともに前期を下回りました。

アセロラ飲料は、テレビコマーシャルや雑誌広告などにより、健康習慣飲料「アセロラドリンク」の認知度が一層高まり、売上げ・収益はともに前期を上回ることができました。

以上により、加工食品事業の売上高は前期に比べ減収となり、営業利益も前期を下回りました。

水産品事業



当期の水産業界は、国内漁獲量は前年を下回る一方、輸入量が過去最高となったことから、全体的には安定した供給体制となりました。しかしながら、デフレ圧力による低価格化や円安によるコスト高から収益が圧迫されるなど、厳しい事業環境となりました。

当社グループは、「安全・安心」を保証できる海外加工業者との取組みを強化するなど、品質保証と最適加工体制の構築を進める一方、えび加工品・鮭加工品などの流通型加工品の取扱いを拡充しました。また、収益性の高い商品・販売ルートへの選択と集中を進め、利益の確保に努めました。

この結果、販売競争の激化や消費低迷などの影響を受け、売上高は前期に比べ減収となりましたが、営業利益は前期を上回ることができました。

畜産品事業

当期の畜産業界は、欧州における口蹄疫を発端として、鳥インフルエンザ問題による中国チキン輸入禁止措置、わが国でも発生したBSE問題、さらには生活者の信頼に反する偽装表示事件が発生するなど、極めて厳しい状況で推移しました。

このような環境下、当社は、引き続き「おいしさ」、「安全」、「安心」、「健康」、「環境にやさしい」をキーコンセプトとして、生活者の信頼にお応えできる品質保証体制の構築と品質管理水準の向上に取り組まれました。

この結果、鶏肉や豚肉の取扱数量の増加などにより、売上高

は前期に比べ増収となりましたが、牛肉の取扱いがBSEの影響を受け大幅に減少したことから、営業利益は前期を下回りました。

その他の事業

Tengu Company, Inc.（北米）は、生産工場の新規稼働に伴う初期費用の負担から、営業損失を計上する結果となりました。

食品卸売事業

当期の食品流通業界は、大手小売業の倒産を背景とした信用不安や長引く消費低迷などにより、企業収益が逼迫する厳しい状況が続きました。株式会社ユキワは、全社横断的なプロジェクトのもと新サービス機能の構築・提供に取り組む一方、基幹情報システムの定着やEDI（電子商取引）の推進に加え、業務改革運動の全国展開により、固定費の削減と生産性の向上に努めました。

この結果、冷凍食品の取扱いが拡大したことなどから売上高は前期を上回り、一般管理費の削減により営業利益は前期に比べ増益となりました。

不動産事業

分譲事業は、福岡市早良区

（10区画）や茨城県牛久市（2区

画）を含め合計23区画の建築条

件付宅地分譲などを実施しまし

たが、売上げ・収益はともに前期

を大幅に下回りました。賃貸事

業につきましては、大阪市北区

のオフィスビル賃貸や東京都中央区築地の土地について一般定期

借地権設定による賃貸の準備を進めました。しかしながら、売上

高は前期に比べ減収となり、営業利益も前期を下回りました。

その他の事業

バイオサイエンス事業は増収・減益、フラワー事業は増収となり、営業損失が縮小しました。東洋工機株式会社は、配送センターの建設や食品冷凍設備工事などが増加したことから、売上高は増収となりましたが、営業利益は減益となりました。



連結貸借対照表（要旨）

科 目	第84期	第83期
	平成14年3月31日現在	平成13年3月31日現在
資 産 の 部		
流 動 資 産	127,893	130,983
現金及び預金	3,587	5,910
受取手形及び売掛金	78,844	79,537
たな卸資産	36,794	37,088
繰延税金資産	2,032	1,142
その他の流動資産	6,935	7,524
貸倒引当金	300	219
固 定 資 産	225,491	236,786
有形固定資産	167,277	172,943
建物及び構築物	96,611	99,253
機械装置及び運搬具	20,721	22,083
土地	45,221	45,631
建設仮勘定	3,041	4,140
その他の有形固定資産	1,680	1,834
無形固定資産	6,885	6,312
投 資 等	51,329	57,531
投資有価証券	36,320	44,006
繰延税金資産	3,884	1,861
その他の投資等	12,663	12,369
貸倒引当金	1,539	706
資 産 合 計	353,385	367,770

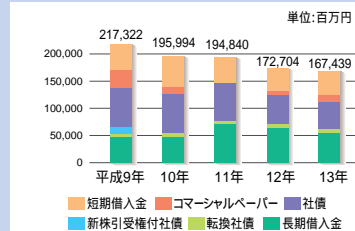
(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 174,535百万円
2. 保証債務 6,756百万円

POINT
連結
貸借対照表

【有利子負債の推移】

当期は、営業活動によるキャッシュフローが当初予定額を下回りましたが、有利子負債期末残高は1,674億39百万円となり、前期に比べ52億65百万円削減しました。なお、次期の有利子負債期末残高は、1,550億円以下を目標としています。

有利子負債期末残高は、短期・長期借入金、コマーシャルペーパー、社債、新株引受権付社債および転換社債の各残高の合計額です。



(単位: 百万円)

科 目	第84期	第83期
	平成14年3月31日現在	平成13年3月31日現在
負 債 の 部		
流 動 負 債	164,665	157,186
支払手形及び買掛金	45,087	50,026
短期借入金	43,401	41,098
コマーシャルペーパー	15,000	8,000
長期借入金(1年以内返済)	7,287	9,585
社債(1年以内償還)	25,000	20,000
未払法人税等	1,587	3,437
その他の流動負債	27,300	25,037
固 定 負 債	100,062	120,043
社 債	25,000	35,000
転換社債	6,307	6,307
長期借入金	45,444	52,713
繰延税金負債	210	2,345
退職給付引当金	4,020	4,189
役員退職慰労引当金	754	1,133
預り保証金	18,196	18,130
その他の固定負債	128	223
負 債 合 計	264,728	277,229
少 数 株 主 持 分	1,007	1,145
資 本 の 部		
資 本 金	30,307	30,307
資本準備金	23,704	23,704
連結剰余金	32,694	30,701
其他有価証券評価差額金	294	5,348
為替換算調整勘定	663	665
自己株式	15	1
資 本 合 計	87,649	89,395
負債、少数株主持分及び資本合計	353,385	367,770

3. 1株当たり当期純利益 13円6銭(自己株式数を除く期中平均株式数による)
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書（要旨）

科 目	第84期	第83期
	平成13年4月1日から平成14年3月31日まで	平成12年4月1日から平成13年3月31日まで
売 上 高	558,191	560,006
売 上 原 価	458,708	456,121
販売費及び一般管理費	85,466	85,287
営 業 利 益	14,016	18,596
営 業 外 収 益	2,123	2,912
営 業 外 費 用	4,454	6,025
経 常 利 益	11,684	15,483
特 別 利 益	660	11,744
特 別 損 失	7,110	20,724
税金等調整前当期純利益	5,235	6,503
法人税、住民税及び事業税	2,542	5,543
法人税等調整額	1,243	3,021
少数株主損失	126	40
当 期 純 利 益	4,062	4,020

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結剰余金計算書（要旨）

科 目	第84期	第83期
	平成13年4月1日から平成14年3月31日まで	平成12年4月1日から平成13年3月31日まで
連結剰余金期首残高	30,701	28,612
連結剰余金増加高		396
連結子会社の増加による増加額		343
持分法適用会社の増加による増加額		53
連結剰余金減少高	2,068	2,328
配 当 金	1,865	1,865
取締役賞与金	203	171
連結子会社の増加による減少額		285
持分法適用会社の増加による減少額		2
持分法適用会社の連結財務諸表作成中止に伴う減少額		4
当 期 純 利 益	4,062	4,020
連結剰余金期末残高	32,694	30,701

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

POINT
連結損益計算書

【売上高】
低温物流事業のなかの流通型物流事業や、食品卸売事業などが前期に比べ増収となりましたが、全体的な市況低迷のなかで水産品事業が取扱数量を絞り込み、また販売用不動産の売上げが減少したことなどから、前期に比べ0.3%の減収となりました。

【営業利益】
水産品事業の採算は改善したものの、加工食品事業では、円安や畜産物の疫病などにより原材料買付価格が上昇したことから収益が落ち込みました。また、当期の不動産事業は、前期の退職給付債務一括償却に充当した販売用不動産の売却益が減少したことから、前期に比べ減収・減益となりました。この結果、連結営業利益は前期に比べ24.6%の減益となりました。

【特別損失】
主な内訳は、千葉畜産工業株式会社の生産工場移転による損失14億59百万円、当社の沼津、仙台、船橋日の出物流サービスセンターなどの事業所閉鎖に伴う損失12億58百万円、財務体質の健全化を目的に処分した投資有価証券の売却損10億26百万円、および株価低迷などに伴う投資有価証券の評価損8億3百万円です。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	第84期	第83期
	平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで	平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,235	6,503
減価償却費	13,570	14,003
売上債権の増減額	39	4,589
たな卸資産の増減額	218	2,380
仕入債務の増減額	4,965	3,998
その他	9,860	16,032
(小計)	23,959	33,567
利息及び配当金の受取額	846	1,212
利息の支払額	3,264	5,056
法人税等の支払額	4,363	5,067
その他		4,083
(計)	17,177	28,739
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	9,509	9,500
有形固定資産の売却による収入	884	1,294
投資有価証券の取得による支出	3,589	2,057
投資有価証券の売却による収入	2,019	3,855
短期貸付金の純増減額	6	117
長期貸付けによる支出	24	36
長期貸付金の回収による収入	76	182
その他	1,592	2,369
(計)	11,741	8,514

科 目	第84期	第83期
	平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで	平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額	1,993	5,347
コマーシャルペーパーの純増減額	7,000	8,000
長期借入れによる収入	1,115	3,073
長期借入金の返済による支出	10,920	12,109
社債の発行による収入	15,000	
社債の償還による支出	20,000	15,466
配当金の支払額	1,916	1,799
その他	128	296
(計)	7,856	23,946
現金及び現金同等物に係る換算差額	156	339
現金及び現金同等物の増減額	2,263	3,382
新規連結に伴う現金及び現金同等物増加		247
現金及び現金同等物の期首残高	5,823	8,957
現金及び現金同等物の期末残高	3,559	5,823

(注) 1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表(要旨)に掲げられている科目の金額との関係
 現金及び預金期末残高 3,587百万円
 預入期間3ヶ月超の定期預金 28百万円
 現金及び現金同等物の期末残高 3,559百万円
 2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

POINT

連結
キャッシュ・
フロー
計算書

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

売上債権やたな卸資産からの資金回収に努めましたが、税金等調整前当期純利益や退職給付会計導入に伴う非資金費用が減少したことに加え、決済サイトの短い輸入仕入債務の支払額が増加したことなどから、前期に比べ115億61百万円減少し、171億77百万円の収入となりました。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

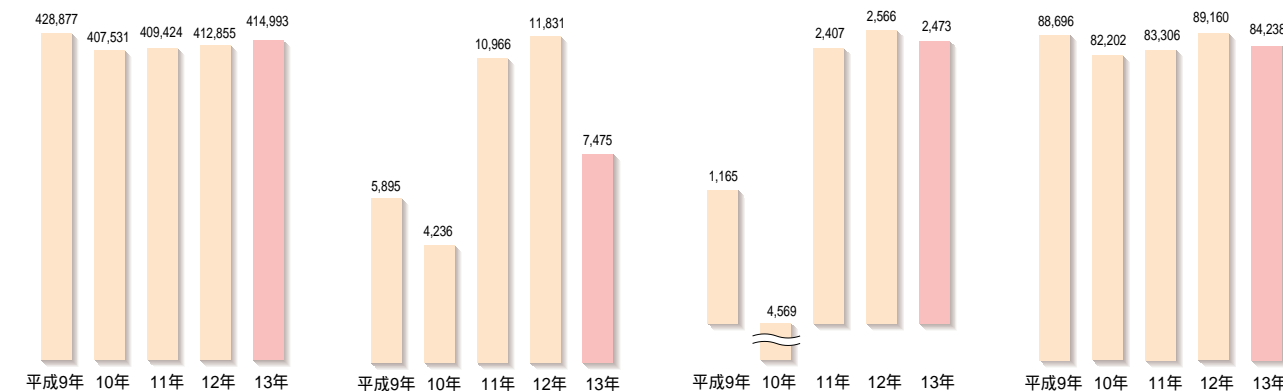
資産の流動化・健全化を図るため、引き続き固定資産や投資有価証券の売却を進める一方、取引関係の維持などの観点から投資有価証券の取得も行いました。また、減価償却費の範囲内で、コア事業の低温物流事業と食品事業に重点的に設備投資を実施しました。この結果、当期は117億41百万円の支出となりました。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

社債償還資金200億円のうち150億円は、長期金利が低下したことから新たに社債を発行して調達し、残額の50億円と長期借入金の返済資金については、コマーシャルペーパーの発行と短期借入金で賄いました。この結果、当期は78億56百万円の支出となりました。

単独決算ハイライト

売上高 (年度/単位:百万円) 営業利益 (年度/単位:百万円) 当期利益 (年度/単位:百万円) 純資産 (年度/単位:百万円)



区 分	単位	第80期 (平成9年度)	第81期 (平成10年度)	第82期 (平成11年度)	第83期 (平成12年度)	第84期 (平成13年度)
売上高	百万円	428,877	407,531	409,424	412,855	414,993
営業利益	百万円	5,895	4,236	10,966	11,831	7,475
経常利益	百万円	4,703	2,291	7,515	11,302	7,374
当期利益	百万円	1,165	4,569	2,407	2,566	2,473
総資産	百万円	288,643	277,498	264,619	270,743	273,597
純資産	百万円	88,696	82,202	83,306	89,160	84,238
1株当たり当期利益	円	3.74	14.69	7.74	8.25	7.95
1株当たり純資産	円	285.33	264.44	267.99	286.82	271.02
設備投資額	百万円	7,688	5,301	3,482	5,020	5,936
減価償却費	百万円	9,970	10,265	10,741	8,291	8,438
有利子負債	百万円	134,798	126,877	107,712	104,953	116,203
従業員数	名	2,671	2,511	2,347	2,038	1,832

(注) 1. 第81期から事業税の表示変更を行ったため、第80期の営業利益および経常利益は事業税額を加算して記載しています。
 2. 第82期から税効果会計を適用しています。
 3. 第83期から金融商品および退職給付に係る会計基準を適用しています。
 4. 印は損失を示しています。
 5. 第84期から、1株当たり当期利益は自己株式数を控除した期中平均株式数に基づき、1株当たり純資産は自己株式数を控除した期末発行済株式数に基づき算出しています。

単独決算概要

単独貸借対照表（要旨）

科 目	第84期	第83期
	平成14年3月31日現在	平成13年3月31日現在
資 産 の 部		
流 動 資 産	105,983	98,714
現金・預金	1,112	2,079
受取手形・売掛金	59,557	59,298
棚卸資産	26,745	27,519
繰延税金資産	1,015	2,130
短期貸付金	13,420	2,805
その他	4,353	5,224
貸倒引当金	220	343
固 定 資 産	167,613	172,029
有 形 固 定 資 産	103,702	102,806
建 物	56,506	54,484
機 械 装 置	12,744	13,328
土 地	28,104	27,811
その他	6,347	7,181
無 形 固 定 資 産	3,791	3,316
投 資 等	60,118	65,905
投資有価証券	30,688	38,467
子会社株式	12,891	12,961
繰延税金資産	2,205	
その他	15,398	15,149
貸倒引当金	1,065	671
資 産 合 計	273,597	270,743

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 130,144百万円
2. 保証債務 33,729百万円

(単位：百万円)

科 目	第84期	第83期
	平成14年3月31日現在	平成13年3月31日現在
負 債 の 部		
流 動 負 債	131,678	112,317
支払手形・買掛金	29,222	28,755
短期借入金	35,651	25,344
コマーシャルペーパー	15,000	8,000
社債（1年以内償還）	25,000	20,000
長期借入金（1年以内返済）	1,865	3,605
引当金	520	
その他	24,418	26,612
固 定 負 債	57,680	69,265
社 債	25,000	35,000
転換社債	6,307	6,307
長期借入金	7,378	6,696
繰延税金負債		1,804
引当金	658	1,065
預り保証金	18,328	18,380
その他	7	11
負 債 合 計	189,359	181,583
資 本 の 部		
資 本 金	30,307	30,307
法定準備金	29,416	29,315
剰余金	24,761	24,324
（うち当期利益）	(2,473)	(2,566)
その他有価証券評価差額金	232	5,212
自 己 株 式	15	
資 本 合 計	84,238	89,160
負 債 及 び 資 本 合 計	273,597	270,743

3. 1株当たりの当期利益 7円95銭（自己株式数を除く期中平均株式数による）
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

POINT



単独貸借対照表

【有利子負債】

当社グループにおける資金調達力と資金効率の向上を図るため、子会社の短期借入金86億29百万円を集約・管理するとともに、南港冷蔵株式会社の吸収合併に伴い、借入金36億88百万円を引き継ぎました。その結果、当期末の有利子負債は1,162億3百万円となり、前期末に比べ112億49百万円増加しました。なお、資金調達コストの低減により支払利息は15億94百万円となり、前期に比べ8億3百万円減少しました。

【その他有価証券評価差額金】

株価の低迷により、保有する投資有価証券に時価評価額の低下が生じたことから、その他有価証券評価差額金はマイナスとなり、純資産は減少しました。

単独損益計算書（要旨）

(単位：百万円)

科 目	第84期	第83期
	平成13年4月1日から平成14年3月31日まで	平成12年4月1日から平成13年3月31日まで
売 上 高	414,993	412,855
売 上 原 価	346,454	340,004
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	61,063	61,018
営 業 利 益	7,475	11,831
営 業 外 収 益	2,383	2,825
営 業 外 費 用	2,484	3,354
経 常 利 益	7,374	11,302
特 別 利 益	1,263	11,933
特 別 損 失	4,517	18,827
税 引 前 当 期 利 益	4,120	4,409
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	647	3,999
法 人 税 等 調 整 額	1,000	2,157
当 期 繰 越 利 益	2,473	2,566
前 期 繰 越 利 益	2,031	2,050
中 間 配 当 額	932	932
利 益 準 備 金 積 立 額		93
当 期 未 処 分 利 益	3,572	3,591

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

利益処分

(単位：円)

項 目	金 額
当 期 未 処 分 利 益	3,572,398,923
特 別 償 却 準 備 金 取 崩 額	51,845,450
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 取 崩 額	260,236,920
固 定 資 産 圧 縮 特 別 勘 定 積 立 金 取 崩 額	594,123,709
合 計	4,478,605,002
こ れ を 次 の と お り 処 分 いた し ま す。	
利 益 配 当 金 (1 株 に つ き 3 円)	932,424,036
取 締 役 賞 与 金	70,000,000
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	507,503,500
固 定 資 産 圧 縮 特 別 勘 定 積 立 金	387,863,538
別 途 積 立 金	500,000,000
合 計	2,397,791,074
次 期 繰 越 利 益	2,080,813,928

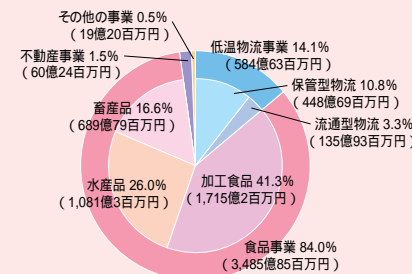
単独損益計算書

POINT



【売上高】

当期の事業別売上高構成比は次のとおりです。



【営業利益】

販売用不動産の売却益が減少したことに加え、円安や国際的な疫病の発生により食品の調達価格が上昇し、食品事業の売上原価が増加したことなどから、前期に比べ36.8%の減益となりました。

【特別損失】

主な内訳は、物流サービスセンターなどの閉鎖に伴う損失11億27百万円、投資有価証券の売却損10億24百万円、保有株式の時価等の下落による投資有価証券評価損6億85百万円です。

利益処分

POINT



【利益配当金】

安定的な配当の継続を重視するとともに、株主資本の充実により財務体質を強化することを基本方針として、1株につき3円（年間6円）の配当とさせていただきます。

なお、平成13年12月4日に932,549,895円（1株につき3円）の中間配当を実施いたしました。

Key Word

ニチレイならではの企業活動やトピックスなどを
キーワードによりご紹介します。

上等洋食

老舗洋食屋の味をそのまま再現

上等洋食シリーズ新登場

冷凍食品は保存料を使用することなく、素材のおいしさを生かすことができます。

当社は、その冷凍食品の良さを生かして「いままでにない、とびきりおいしい商品」を作りたいと考えました。

『上等洋食シリーズ』を開発するにあたり、老舗名店の料理長にご協力いただき、お店のレシピや調理ノウハウ、おいしく仕上げるコツなどをご教授いただきました。それに当社が今まで培ってきた冷凍調理技術を生かし、試作を繰り返した結果、お店で提供されている味を再現することができました。

老舗洋食屋のプロの味と当社の冷凍調理技術があってこそ実現できた『上等洋食シリーズ』

ニチレイが自信をもってお届けいたします。



東京・日本橋 **たしめしけん**

プロならではの技が冴える

ポテトコロッケ

「茹でたじゃがいもを丹念に、きめ細かく裏ごししてからフレッシュクリームを加えるんです。裏ごしというのはなかなか手間のかかる仕事ですが、これなしではふんわりとなめらかな舌ざわりには仕上がりません。ソースには店で古くから使っているウスターソースをアレンジして添えました。これがまた、よく合うんですよ」と総料理長の茂出木さん。そのクリーミーでリッチな味は、これまでのポテトコロッケのイメージを覆すに充分なおいしさです。



東京・御茶ノ水 **小川軒**

伝統の個性ある逸品

ハヤシライス

ハヤシライスのベースとなる深みのあるコクと豊かな香りに満ちたブラウンソースは、甘味と酸味のバランスが絶妙で、しかも個性的。「深みのあるコクはそのままだ、でも、お子さまにも食べやすいように仕上げました。大人の方は、ブランドをちょっとたらしめて食べてみてください。さらに味わい深くなります。さっぱり食べたいときには、レモン汁を2~3滴たらずといいでしょう。そのまま温めても手軽においしくいただけますが、小鍋に移して温めると香りがたち、一層本格的な味わいが楽しめます」と料理長の小川さん。バターライス付きなので、それだけでボリューム感のある贅沢な夕食として楽しめます。



京都・上七軒 欧風料理 **萬春**

店でも人気の高いまるやかさ

ライスグラタン

総料理長こだわりのベシャメルソースは、舌ざわりがさらっとしているのに、濃厚でコクのあるまるやかな味わいは絶品。ほどよい酸味のエビ入りトマトソースとの相性も抜群で、ソースとライスの絡み具合も絶妙。総料理長の伊藤さんいわく、「トマトソースとベシャメルソース、2種のソースのバランスを大切に作りました。オーブントースターでじっくりと焼き、焼き上がりに刻んだパセリをパラパラとふってください。香りがよくなるだけでなく、味もぐんと引き立ちます。そして、あつあつをフーフーいいながら召し上がってください」とのこと。小さなお子さまからお年寄りまで楽しめるのもライスグラタンならではの魅力です。



神戸・新開地 **グリル一平**

この店ならではのオリジナル

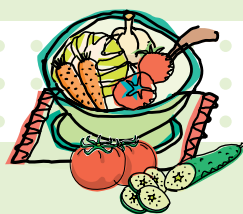
デミ・マカロニ

この料理は、ホワイトソースならぬデミグラスソースのマカロニグラタン、といった趣のものですが、そこに「グリル一平」自慢のハンバーグステーキをドッキングさせたのが、デミ・マカロニ。「店ではフライパンで焼いてから鉄板に盛りつけてお出ししています。ご家庭でも、表面が少し焦げてジュツという音がするほどに焼いて、その香ばしいおいしさを楽しんでください」と総料理長の山本さん。マカロニとハンバーグにたっぷり絡めたデミソースは、やや甘めでコクがあるので、ご飯のおかずにもぴったり。またそれだけで、昼食や夜食、さらには育ち盛りのお子さまのおやつにも最適です。



Introduction

ご好評の商品をご紹介します。



【家庭用】

本格中華あんかけ



野菜たっぷり、しかもシャキシャキとした歯ごたえがたまらない本格中華あんかけです。具材の彩りを引き立てる照り、透明感が食欲をそそります。ボリューム満点で、ご飯にも焼そばにもたっぷり絡み、最後までバランスよくお召し上がりいただけます。

【家庭用】

若鶏の唐揚南蛮



甘酢のさっぱりした風味が食欲をそそる唐揚南蛮。ベーシックな醤油味に味付けしたふっくら柔らかな若鶏の唐揚げを、あついうちに特製甘酢ダレにジュワッとくぐらせて仕上げました。夕食のメインになる本格的な唐揚げの登場です。

【家庭用】

中高生のお弁当 たっぴり野菜のサーモンカツ



おいしいサーモンに彩りのよい野菜を加え、サクッと揚げたヘルシーなお魚のカツです。たまねぎ、にんじん、キャベツ、いんげんがサーモンと相性よく、それぞれの味を引き立てます。ほんのりマヨネーズ風味なので、魚が苦手なお子さまにもおすすめです。

【家庭用】

新・レンジ生活 衣がサクサク肉じゃがコロッケ



甘辛く味付けした豚肉や十分にソテーした玉ねぎの甘さがじゃがいもとマッチしたコロッケです。しっかり味付けしているので、そのままでもおいしく召し上がれます。当社独自の技術で、レンジ調理で揚げたてのように衣がサクッと仕上がります。

【業務用】

くだものみたいなみかんゼリー



長崎県産の温州みかんの果汁と粒つぶの果肉をたっぷり使った、香り豊かなゼリーです。みかんが最も甘くておいしい時期のものを限定使用しています。なめらかな食感と口溶けの良さをお楽しみください。

【業務用】

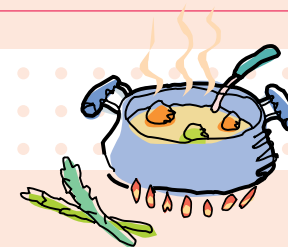
アセロラブラマンジェ



イギリス風ブラマンジェと自家製アセロラソースが層になった、おしゃれなデザート。美しい彩りとなめらかで、とろけるような食感をお楽しみください。1カップで天然ビタミンCが30mg摂れます。

「おいしさ」ひと工夫

当社の商品を使った調理例をご紹介します。



【唐揚南蛮のみぞれ煮】

【材料2人分】

大根おろし1/2カップ、れんこん（1cm幅半月切り）5cm、
万能ねぎ適宜、だし汁1カップ、しょうゆ大さじ1、みりん大さじ1
「若鶏の唐揚南蛮」1袋

【作り方】

- ① 鍋にだし汁、しょうゆ、みりんを入れ、れんこんを柔らかくなるまで煮る。
- ② 「若鶏の唐揚南蛮」を電子レンジで加熱する（600Wで3分）。
- ③ ①に②と大根おろしを加えて少々煮る。
- ④ 器に盛りつけ、万能ねぎをあしらって出来上がり。



【細切りポテトのオープンサンド】

【材料2人分】

食パン2枚、ピザ用チーズ1/2カップ、ベーコン（5mm幅細切り）2枚、
マヨネーズ適宜、パセリ（みじん切り）適宜
「アレンジいろいろ細切りポテト」1/2袋

【作り方】

- ① 「細切りポテト」を電子レンジで加熱する（600Wで2分）。
- ② ①のポテトとチーズ、ベーコンを合わせる。
- ③ 食パンに②のをのせ、マヨネーズを格子状に細く絞り出す。
- ④ オープントースターで焼き目がつくまで焼き、食べやすい大きさに切って、パセリを散らして出来上がり。



株式の状況 (平成14年3月31日現在)

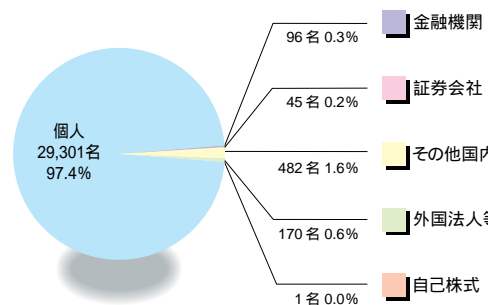
会社が発行する株式の総数 720,000,000株
 発行済株式の総数 310,851,065株
 1単元の株式数 1,000株
 株主数 30,095名

大株主

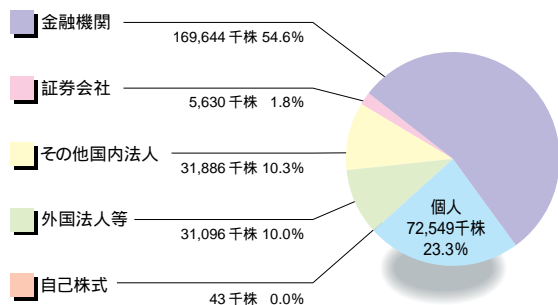
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トクイ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	24,122	7.8
日本生命保険相互会社	17,334	5.6
みずほ信託退職給付信託富士銀行口再信託受託者 資産管理サービス信託	13,655	4.4
株式会社UFJ銀行	13,249	4.3
三菱信託銀行株式会社(信託口)	10,362	3.3
日産火災海上保険株式会社	9,968	3.2
第一生命保険相互会社	6,351	2.0
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	6,016	1.9
株式会社日本興業銀行	5,514	1.8
農林中央金庫	5,350	1.7

(注) 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

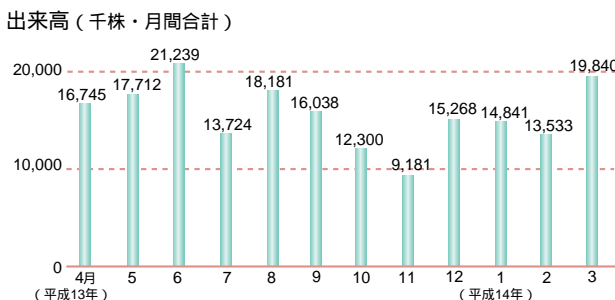
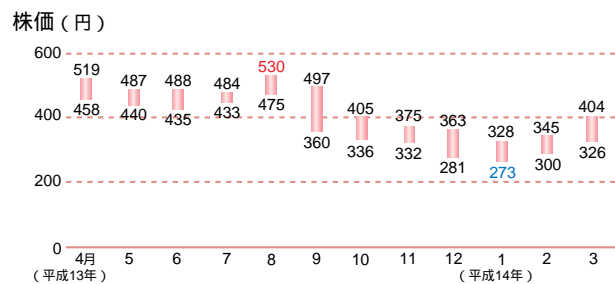
所有者別株主数分布状況



所有者別株式数分布状況



株価チャート



第7回東証ディスクロージャー表彰受賞



平成14年1月、当社は第7回東証上場会社ディスクロージャー表彰を受賞しました。この賞は、毎年1回東証の選定委員会が決算発表に要した日数や決算短信および事業報告書の記載内容などを検討・評価し、ディスクロージャーに積極的に取り組んでいると認められた会社を表彰するものです。

会社概要 (平成14年6月26日現在)

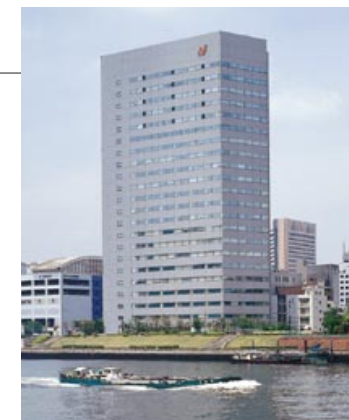
社名 株式会社ニチレイ
 所在地 東京都中央区築地六丁目19番20号
 ニチレイ東銀座ビル

設立 昭和17年12月

役員

代表取締役 会長	大戸 武元
代表取締役 社長	浦野 光人
取締役 専務執行役員	福田 厚司
取締役 専務執行役員	横田 浩二
取締役 専務執行役員	榎 敏秀
取締役 常務執行役員	原 直弘
取締役 常務執行役員	村上 英彦
取締役 常務執行役員	前嶋 弘一
取締役 常務執行役員	秋山 修
取締役 常務執行役員	千葉 充幸
取締役 常務執行役員	荒 昌裕
取締役 執行役員	遠山 昌利
取締役 執行役員	椎橋 治男
取締役 執行役員	笠井 剛
取締役 執行役員	相馬 義比古
常任監査役(常勤)	後藤 一彦
監査役(常勤)	青木 信吾
監査役(非常勤)	河上 和雄
監査役(非常勤)	内野 治泰

執行役員 山本 宏樹
 執行役員 大塚 恒博
 執行役員 坂口 哲
 執行役員 長谷川 寿
 執行役員 荒 剛史
 執行役員 大平 潤一
 執行役員 宮 由光
 執行役員 廣 瀬 晋



本社

支社

北海道支社 〒060-0807 札幌市北区北7条西1-2-6
 ☎(011)708-0791

東北低温物流支社 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1
 東北営業支社 ☎(022)711-2101

関東低温物流支社 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7
 関東営業支社 ☎(03)3297-4501

中部低温物流支社 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16
 中部営業支社 ☎(052)683-2551

関西低温物流支社 〒530-0043 大阪市北区天満1-3-21
 関西営業支社 ☎(06)6357-2011

九州低温物流支社 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5
 九州営業支社 ☎(092)841-6700

会計監査人 新日本監査法人
 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

ホームページアドレス <http://www.nichirei.co.jp/>